

透析機器安全管理委員会の現状と未来

森 山 博 之

キーワード：オンライン濾過透析；透析液水質確保；エンドトキシン・生菌数測定

(雲南市立病院医学雑誌 2019; 16(1): 127-128)

委員会設置の経緯

透析機器の耐用年数超過から新本館棟建設にともない、透析効率の向上、長期透析合併症の予防が期待できるオンライン濾過透析（online hemo dialysis filtration、以下OHDF）化を目指しOHDF対応機器を選定し、「透析機器安全管理委員会」を立ち上げた。

オンライン血液濾過透析（OHDF）

透析液を補液として使用するOHDFの実施には厳しい水質管理が求められ、直近3ヶ月のエンドトキシン測定、培地による生菌数計測を全機器で行い水質が保たれていることを確認し、日本透析医学会内での透析液水質確保に関する研修を経て申請した。その後は1年間で全台のエンドトキシン、生菌を測定し水質管理が正常にできているかを確認している。また、透析毎

に残留塩素を測定し、フィルターや消耗品を定期的に交換、reverse osmosis（RO）装置の定期メンテナンスをして透析液の清浄化を維持している（図1、図2）。

活動の現状と今後

当委員会は1回/年開催し水質が管理されているか、安全が保たれているかを検討している。現在のところは、機器も新しく、水質異常もなくOHDFが行えているが、今後機器の劣化に伴って水質に異常をきたす可能性は少なからずあると思われる。そうなったときに、どこに原因があるのかを早期に発見し改善することで、患者さんに安全・安心な医療を提供し、予後改善に努めていきたいと思う。透析をしながらでもしっかり食べ、しっかり動き、活力ある生活を送れるようサポートし地域を明るく元気にしたいと考えている。



図1 新棟移転後の血液透析機器



図2 新棟移転後の血液透センター資機材室

Present status and future perspective of the committee
for safety management of dialysis equipment in Unnan City Hospital.

Hiroyuki Moriyama

Committee for safety management of dialysis equipment, Clinical laboratory, Unnan City Hospital
Correspondence: Hiroyuki Moriyama, Clinical laboratory, Unnan City Hospital [96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN]
Telephone: 0854-47-7500 / Fax: 0854-47-7501
E-mail: kumo-lab@hotaru.yoitoko.jp